



KOURAKUEN
HOLDINGS



平成 27 年 10 月 23 日

各 位

会 社 名 株式会社 幸楽苑ホールディングス
代表者の役職名 代表取締役社長 新井田 傳
(東証第一部 コード番号 7 5 5 4)
問い合わせ先 専務取締役
管理本部長 武田 典久
T E L 0 2 4 - 9 4 3 - 3 3 5 1
<http://www.kourakuen.co.jp/>

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成 27 年 5 月 8 日に公表した業績予想を下記のとおり修正することとしましたので、お知らせ申し上げます。

記

1. 平成 28 年 3 月期第 2 四半期（累計）連結業績予想数値の修正
（平成 27 年 4 月 1 日～平成 27 年 9 月 30 日）

	(単位：百万円)			(単位：円)	
	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1 株 当 たり 四 半 期 純 利 益
前回発表予想 (A)	19,992	488	508	227	13.97
今回修正予想 (B)	19,252	356	312	38	2.34
増 減 額 (B-A)	△740	△132	△195	△189	—
増 減 率	△3.7%	△27.0%	△38.5%	△83.2%	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績	18,926	400	445	146	9.11

2. 平成 28 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正
（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

	(単位：百万円)			(単位：円)	
	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
前回発表予想 (A)	40,358	1,026	1,044	367	22.51
今回修正予想 (B)	38,829	933	917	227	13.92
増 減 額 (B-A)	△1,528	△93	△126	△139	—
増 減 率	△3.8%	△9.1%	△12.2%	△38.0%	—
(ご参考)前期実績 (平成 27 年 3 月期)	37,679	811	912	261	16.19

3. 平成 28 年 3 月期第 2 四半期（累計）個別業績予想数値の修正

（平成 27 年 4 月 1 日～平成 27 年 9 月 30 日）

		(単位：百万円)	(単位：円)	
	売上高	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	19,837	554	292	17.90
今回修正予想 (B)	12,930	208	51	3.14
増減額 (B-A)	△6,907	△345	△240	—
増減率	△34.8%	△62.4%	△82.4%	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績	18,815	485	204	12.71

(注) 当社は、平成 27 年 7 月 1 日を効力発生日として、吸収分割方式による会社分割を行い、持株会社体制へ移行しております。

4. 平成 28 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正

（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

		(単位：百万円)	(単位：円)	
	売上高	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	40,026	1,086	442	27.10
今回修正予想 (B)	19,852	669	328	20.06
増減額 (B-A)	△20,174	△416	△113	—
増減率	△50.4%	△38.4%	△25.8%	—
(ご参考)前期実績 (平成 27 年 3 月期)	37,418	953	335	20.73

5. 修正の理由

【第 2 四半期（累計）】

連結売上高につきましては、国内直営新規出店は計画 23 店舗に対して実績 15 店舗となり、また既存店売上高前期比は計画 103.4%に対して実績 100.6%と 2.8 ポイント減少したことにより、計画対比で 3.7%の減少となりました。

利益面につきましては、内製化による原価低減、店舗就労コントロール及び LED 照明や節水装置の導入等によるエネルギーコスト削減等に努めてまいりましたが、売上高の減少による利益を吸収できず、営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益は当初計画を下回る見込みとなりました。

この結果、前回公表の第 2 四半期（累計）業績予想に対して、連結・個別ともに上記のとおり修正いたします。

【通 期】

当社グループが属する外食産業におきましては、引き続き厳しい経営環境が続くことが見込まれ、来店客数の下振れリスクが潜在するものと想定されます。

第 3 四半期以降の見通しにつきましては、「価値重視」の一環として「サービス力」の強化を図るとともに、地域性を重視した商品開発を推進し、既存店客数の改善に努めてまいります。

通期の業績見通しにつきましては、第 2 四半期（累計）の結果から、前回公表の通期業績予想に対して、連結・個別ともに上記のとおり修正いたします。

以 上

(注) 業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、予想につきましては様々な不確定要素が内在しておりますので、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。